

水位変動を±35cmとすれば、高水位時で90~105cm、低水位時で20~35cmの水深の場所に生育していることになる。葉柄は2m前後までになるのでこれより深い場所に生育する場合もあろうが、そのほかの生育地の状況を合わせると、概ね安定した水位の場所であり、水深1m以浅であって低水位時にも表水があるような場所に生育すると考えて大きな誤りはなさそうである。

このように考えてみるとハスとオニバスの生育する水深は競合しており、将来的な共存は困難であると言わざるを得ない。ハスを除去してオニバスの生育地を確保し、周囲を透水性シートにより囲んでハス地下茎の侵入を防

止する方法により保護をはかる方向で検討中である。

「開発」転じてオニバスの保護となった数少ない皮肉な例である。

参考文献

- 角野康郎 1983. 冬を越さずに発芽したオニバスの種子. 水草研究会報12:5-6.
 角野康郎 1984. 兵庫県播磨地方のオニバス群落. 水草研究会報17:25-27.
 久米 修 1988. 簡易容器を利用したオニバスの発芽観察. 水草研究会報32:5.

愛知県東海市にミジンコウキクサ

中井三従美

ミジンコウキクサ *Wolffia arrhiza* (L.) Wimm. は池沼や溝など水路に群生する浮漂植物、多年草。植物体も花も種子植物のなかで最小である。



写真1. 東海市名和町の水路 63. 8. 29

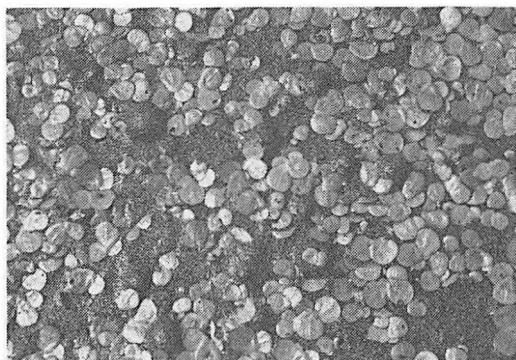


写真2. ミジンコウキクサとウキクサの混生 63. 8. 29

本年8月14日、東海市名和町、西知多産業道路近くで水草で覆われた水路をみつけ、その後17日にその水路の調査をはじめた。この水路は工場や田んぼの間を流れ汚水も入る長さ約1.5kmのものである。

ウキクサに混って、微小なウキクサ類を採集した。根はなく、葉状は卵球状で濃緑色、葉脈はない。上記ミジンコウキクサと思われる。同水路はヒシ(二棘性)、トチカガミ等多くの水生植物が生育している。現在調査中である。

水が引いたらヒメシダ、エゾミソハギなど水生植物が非常にふえた山口県阿武町長沢の池

南 敦

1988年8月31日、山口県阿武郡阿武町長沢の池〔国土地理院地形図5万分の1:徳佐中一左上〕(約100m×200m)を訪れた。大変水面が下がり、以前水中であった所が陸地(水上)になり、クサレダマ、エゾミソハギ、ヒメシダ、ショウブなどが勢いよく緑々とふえ、花や胞子をつけていた。以前水中であったために、水上での競争相手がなく、どんどん繁殖するのに好都合だったのであろう。水が深くてまった時には、根を除いて枯れてしまったのであろう。更に深い所では根すら枯れ腐ったものも多かったと思われる。水が引いたら生き残った根系から一斉に発芽し、競争相手がいなくて猛烈に繁殖したらしい。